

平成25年度 自己評価表

教育方針： 教育基本法及び学校教育法に則り、高等学校通信制の課程(普通科・単位制)の特色を生かした教育を進め、豊かな人間性と自律・自立の力を養い、人のため、社会のために貢献する人間を育成する。

- 重点努力目標： ① 生きる力の育成(サンキューレターの充実、長期目標設定シートの活用、基本的生活習慣の指導の徹底、充実した学校行事、人権教育および健康・安全教育の推進、家庭との密な連携)
- ② 確かな学力の育成(分かる授業の徹底と基礎学力の定着、早めのレポート完成、コースに応じた学力の育成、学力に応じ一人ひとりを大切にた指導の徹底、授業録画ビデオによる研修)
- ③ キャリア教育の推進(正しい職業観・勤労観の育成、長期目標設定シートにより将来を設計、進学・就職指導の充実、保護者と連携した進路指導、資格取得検定合格、専門学校との連携)

領域	項目	具体的取組目標	目標達成状況	学校関係者評価・提言	次年度改善策
学習指導	教科指導の充実	生徒のレベルに応じた分かりやすい授業を行う。	実態に応じた授業を工夫し試みているが、格差が大きく対応しきれないところもあり、個別指導などで対応しているところもある。	学習習慣の付いていない生徒への対応は大変なところもあるようですが、生徒の興味関心を回りながら基礎学力の定着を目指してレポート指導なども含めて地道にやっっていく以外にないと思われる。	能力的にも、意識の面でも多様化している生徒への対応について、試行錯誤をくり返しなが、必要に応じ個別指導も取り入れ基礎学力の向上を図っていく。
		生徒の興味・関心を回りながら各授業目標を設定して、学習意欲の向上を図る。	受け身ではなく、能動的に参加する生徒の姿勢がみられたが、興味・関心が薄く集中力が続かない生徒も一部みられた。	学校生活が楽しく感じる生徒と保護者の割合が高い傾向にある一方、勉強の仕方が分からない生徒、将来の進路に不安を抱えている生徒の割合も高いところがあるので、個別指導等を取り入れたきめ細かい指導が今後一層必要なのではないだろうか。	一週間ごと、あるいは各時間ごとの授業目標を一層明確にして、授業に取り組み意欲の向上を図っていく。
		視聴覚機器等を利用して効果的な学習指導に努める。	教科にもよるところもあり、また機器が十分揃ってないところもあり利用している人とそうでない人に大きく分かれているところがある。	体力に自信のない生徒の割合が高いのだが、施設に恵まれてないところもあって大変だと思うが、体育の授業等を中心にして対処して行けたらと思う。	生徒の興味・関心を回す上で効果が上がるところは研究を積んで、積極的に利用していく必要がある。
		授業力アップのため、授業録画ビデオによる研究に努める。	新任の教員を中心に、録画ビデオを生かしてお互いに反省や研究に努め、次の授業に生かすことも出来た。	失敬しないかと心配ばかりしている生徒の割合が高いのが気になる。高校時代に色々なことに挑戦することにより楽しさや嬉しさが増えて来るから、消極的にならずに行動を起こしてほしい。	授業風景をビデオに撮られる事はプレッシャーになるところもあるが、お互いに授業力アップのために今後も継続して行く必要がある。
レポート指導の充実	自学自習の習慣の育成とレポート課題の自主的な取り組みの向上を図る。	一部根気強い指導を要する生徒もいるが、多くの生徒は自主的な取り組みが出来るようになっている。		自学自習の習慣が付いてない生徒について学習の仕方や提出期限を守ることを継続して根気強く指導する必要がある。	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	校則や身だしなみについて、校内のあらゆる場面で指導に当たる。	登下校・授業時を中心に継続的に指導している。上級生は全体的に落ち着いてきているが、下級生の一部に指導に時間がかかる生徒がいる。	昨年と同様、保護者・生徒の評価と教職員の自己評価において開きがあるようだが、何処に基準をおくかで見方が変わってくる。指導の成果について全体的には評価できる状況にあると思う。先生方がより危機感を持って指導にあたっている結果だと思うから良いのではないだろうか。	今後も継続して教員一人一人が責任を持って粘り強く指導にあたる。時には毅然とした態度、厳しい指導が必要である。
		社会で必要なマナーやエチケットについて継続的な指導を行う。	登校時や職員室の出入り時の挨拶や玄関周辺(靴箱)の整頓等で全体的に良い習慣が身に付いてきている。	学校は勉強や社会性を育成するところであり、本来、基本的生活習慣は家庭の問題であるが、問題のある生徒が何割かいるのが現状である以上、生徒の将来のことを考えて家庭と協力して効果が上がるように指導していく必要があると思う。	今後社会生活をする上で基本になる大切なことなので、学校行事等も含め学校生活全体で習慣化出来るように指導していきたい。
	問題行動の未然防止	日頃から、生徒と会話したり相談にのるなど信頼関係づくりに努める。	日頃から生徒の動向に気を配ったり、生徒が話し易い環境作りに取り組んでいる。	入学したときの生徒の状態と比較して、学年が進むにつれて落ち着いてきているようであり、3年間の指導の成果が表れて来ているので、先生方にはもともと自信を持って指導にあたってもらいたい。	内向的な生徒や自分の気持ちを素直に表せない生徒への気遣いや休みがちの生徒への早めの対処を心掛ける。
進路指導	進路指導の充実	進路指導計画に従って、進路情報の提供等により3年間を見通した進路指導を行う。	転入生も多く、計画的な進路指導が出来にくいところもあるが、将来を見据えた高校生活が送れるよう取り組んでいる。	3年間は考え方によっては短い。就職の場合は2年生から取り組んでも遅い場合もあるので、出来るだけ早い時期から進路指導を始める方がよいと思う。	一人一人の適正や長所を考慮しながら、日々の学習活動に真剣に取り組むことにより、進路実現を図る。
		高専連携によるキャリア教育を推進して職業意識の向上を図る。	計画的に専門学校等の先生を講師に招いての出前授業の実施により職業意識の改革・向上が図られている。	多様化する生徒がいるなかで個々に進路指導の効果を上げるのはむづかしいところもあるが、生徒との信頼関係が強いようなので、家庭との協力を回りながら進めていけば少しずつ効果が上がってくると思う。	今後とも継続して、関心の薄い生徒も含めて、自分の生き方や卒業後の進路について意識の向上を図っていききたい。
		進路選択に当たって3者面談等で保護者との連携を図る。	3年生は、生徒の適正や興味と保護者の気持ちを考慮しながら進路について真剣に取り組む姿勢がみられた。	進路に対する意識の低い生徒に対して、目標設定シートを使ってまず身近な目標から一つ一つ抑えていくなかで、将来の進路実現に繋がるように継続していく。記入していることをもとに生徒との対話が更に進んで来ると思う。	保護者と意思疎通を回りながら、自分の将来や進路について真剣に考え、高校生活に取り組めるようにする。
		コースに応じて進学・就職対策を効果的に行う。	学年が進むにつれ、専門分野の学力の向上や模試・検定・資格試験への意欲的な取り組みがみられた。		より多くの生徒が、能力に応じて各種模試・検定・資格試験に挑戦する気持ちになるように機会を捉えて全校生徒の前で成果を披露する。
特別活動	学校行事の充実	運動会、スキー等の行事を充実させる。	運動が苦手な生徒もいたが、殆どの生徒は準備・後かたづけも含めて協力して意欲的に活動できていた。	学校行事(運動会、スキー教室等)に楽しく参加している生徒の割合が高いのは大変良いことである。生徒達が準備から後片づけまで協力して意欲的に出来ているようで、社会生活をしていく上でいい取り組みが出来ていると思う。	今後も更に、各自が役割を果たし全員が協力して各学校行事に取り組め、盛り上がったものになるようにする。
	「感謝の心」を育む	サンキューレターによって、生徒の人間性の成長を図る。	学校全体が、共通理解のもと、長期目標設定シートの作成を勧めているが、十分に活用できていない生徒もいる。		自分自身と真剣に向き合う良い機会なので、長期目標設定シートの作成時から有効活用出来るカリキュラムが必要である。